

平成29年度第1回大阪府市地方独立行政法人
大阪産業技術研究所評価委員会
議事要旨

- 1 日時 平成29年7月13日(木)午後2時～
- 2 場所 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 森之宮センター 3階 大講堂
- 3 出席委員 田口委員長、大橋委員、中村委員、西村委員、山田委員
- 4 議事内容

(1) 旧地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所の平成28年事業年度の業務実績に関する評価について

法人から、資料1から5及び資料8に基づき、平成28事業年度の業務実績について報告が行われた後、質疑応答、小項目評価についての審議が行われた。

24の小項目について審議を行った結果、22の小項目については、法人の自己評価を妥当と判断した。

小項目番号4については、法人の自己評価はⅢであったが、

- ・ 研究員が行ってきた工業標準化活動への貢献が認められ、経済産業大臣賞を受賞した。

- ・ 業界団体等への情報発信・協力件数の目標値を上回る成果を挙げた。

ことを高く評価し、評価委員会としての評価をⅣとした。

小項目番号9については、法人の自己評価はⅢであったが、

- ・ 簡易受託研究を除く受託研究件数が、目標値を大きく上回る成果を挙げた。

ことを高く評価し、評価委員会としての評価をⅣとした。

<主な意見>

- ・ アンケート項目に平均寄与額が入っていることは、着眼点としては、非常に良い。

しかし、定義が曖昧なので、定義を明確にする等工夫をすることで、今後、大々的に宣伝することができると思う。また、アンケートの回収率が10%あがったが、回答していない6割にも大事な意見があると思うので、回収率をあげるように努められたい。

- ・ 技術サポートセンターに一部の依頼試験を委ねることで、効率がアップし、研究員が研究に注力でき、技術伝承もできる。もっと言えば熟練した経験者の雇用にも繋がり、結果、簡易受託研究も増えたことにも繋がり、評価する。

- ・ 設備機器開放の利用時間延長に関して、利用時間を延長することは対応する従業員の労働時間の延長にもなるため、働き方改革が言われている昨今、時間が増えれば増えた分だけ評価するというわけではない。利用時間の延長をすることで利

用者の満足度が高まるのか、ニーズを認識した上で、顧客満足度を大事にしながらも、いたずらに時間を延長するのではなく、実施してほしい。

(2) 旧地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所の第1期中期目標期間の業務実績に関する評価について

法人から、資料6及び7に基づき、第1期中期目標に係る業務の実績について報告が行われた後、質疑応答及び審議が行われた。

<主な意見>

- クレームがついたらすぐに解決をしないといけない中小企業にとっては5日掛かるところを、2日で答えを出してもらおうほうが役にたつ。公設試としてもっと利用してもらうためにそういったことを、これからどうサービス、システム化していくか、といったことも次の目標に大事かと考える。
- 高く評価したいのは、数値目標を達成されたことではなく、具体的に企業が使うことについて、努力されてきた。努力をし、広報活動をして、人がきて、人がくれば利用して収入が増えるという、循環がうまくいっている。
- 今後は、生産性についても数値を見るだけではなく、生産性を伸ばしていただいたという職員の努力面についても、評価する必要があると考える。
- 全体的にすごく右肩あがり、大きく成長された。ただ、このままずっと右肩あがり伸び続けられるわけではないので、これからは実質を見る、ということを考えていかなければならない。

(3) その他 特になし

以上